

日本保険学会平成26年度第4回理事会議事録

●日時：平成27年3月13日（金）17：00～18：10

●場所：損保会館会議室

1. 審議事項

（1）入退会者

福田理事長より 個人会員の入会者10名、退会者14名の説明があり異議なく了承された。

あわせて、理事長より 以下の補足説明ならびに依頼があった。

平成26年度通算では、入会者56名に対し、本日までの退会者は51名であり、昨年に引き続き入会者は増えている。（昨年度は入会者65名に対し、退会者47名。過去4年間で、43名の増。）

ご承知のとおり、会費収入は当学会のほぼ唯一の収入源であることから、引き続き新規会員の勧誘をお願いしたい。また、賛助会員候補があれば、ぜひご相談願いたい。

（2）大会企画委員会関連

堀田大会実行委員長より、慶應義塾大学で実施する来年度大会につき、以下のとおり報告があった。

- ・プログラム案は配付資料のとおりである。初日午前中は、韓国保険学会の招待報告と総会を行なう。初日午後は自由論題の報告を実施。夜は恒例の懇親会を実施する。
- ・2日目は、池尾和人先生（慶應義塾大学経済学部教授）による特別講演を行った後、「グローバリゼーションと保険業」をテーマに5名の報告者によるシンポジウムを行う。
- ・**自由論題**については、下記のとおり、経済・商学系、法律系、それぞれ4名のエントリーが決まった（敬称略）。来年度も本年度同様、2セッションのみで実施する。
報告時間は、「1報告につき45分」とし、10分を質疑応答時間に充てる。

●大会／第Iセッション（経済・経営・商学系）

◆座長：未定

①少額短期保険会社の財務健全性とリスク

報告者 前田祐治（関西学院大学）

②わが国上場企業のリスクマネジメントに関する実証分析（仮）

報告者 柳瀬典由（東京経済大学）

③音楽ライブ・エンタテインメントにおけるリスクと保険

報告者 亀井克之（関西大学）

④保険サービスシステムの再構築に関する一考察

報告者 神田 恵未(大阪樟蔭女子大学)

●大会／第IIセッション（法律系）

◆座長： 未定

①大成火災取締役の破綻責任について

報告者 吉澤卓哉（京都産業大学）

②保険契約からの反社会的勢力排除の法理（仮）

報告者 藤本和也（弁護士、共栄火災）

③精神障害を理由とする免責規定に関する考察（仮）

報告者 勝野義人（弁護士）

④車両保険における薬物免責

報告者 永松裕幹（弁護士）

なお、それぞれの座長については、現在検討中である。

*事務局追記：3月31日までに 第Iセッションの座長は石田理事が、

第IIセッションの座長は、梅津理事がそれ務めることが決定した。

- ・学会創立75周年記念事業として「福澤諭吉と日本の保険業」と題して、大学図書館が所蔵する福澤閑連の貴重図書を図書館内の特設会場に展示すべく準備している。
なお、本展覧会は、保険学会開催期間を含む、約1か月を予定している。

以上の報告内容ならびに自由論題の報告者について、提案どおり承認した。

（3）企画委員会報告

理事長より、本日開催された企画委員会について、提案および報告があった。

① 学会創立75周年事業

記念事業の一環として公刊する「日本保険学会75年略史」は、現在事務局で原案を作成中である。その構成であるが基本的には「日本保険学会50年略史」（平成2年11月刊行）を踏襲したいと考えている。今後の進め方としては、鈴木先生以降、歴代の理事長ご経験者と理事各位からご意見をいただき、最終的に6月理事会でご承認いただきたい。

以上の提案につき、承認した。

②学会活性化について

企画委員会において、学会活性化についての論議を行い、1年以内になんらかの結論を出すことを取り決めた。

（4）第3期学会賞選考委員会委員選任

理事長より、本日開催された企画委員会について、第3期の学会賞選考委員会委員の候補者として、以下5氏の推薦があったことが報告され、これを承認した。

経済・商学系

岡田 太 理事 (日本大学)
久保英也理事 (滋賀大学)
柳瀬典由評議員 (東京経済大学)

法律系

洲崎博史理事 (京都大学)
肥塚肇雄評議員 (香川大学)

(5) 国際交流委員会報告

理事長より、本日開催された国際交流委員会において、羽原理事が委員長に就任したことが、報告された。次いで、羽原理事より来年度の国際交流関係の計画につき、以下のとおり報告ならびに提案があった。

- ・4月にハバナ（キューバ）で実施されるAIDAの理事会には、羽原理事を派遣。
 - ・5月にソウルで実施される韓国保険学会の全国大会には、福田理事長および黒木評議員（名古屋商科大学）を派遣。
 - ・8月にミュンヘンで実施されるAPRIA大会には、柳瀬評議員（APRIAのBoard of Governor）を派遣。
- これらの提案を承認した。

(6) 平成27年度事業計画（案）・予算（案）

平成27年度の事業計画（案）につき、事務局から説明があった。昨年同様、各委員会、部会がそれぞれの計画を策定し、それをとりまとめたものである。

次いで、平成26年度決算見込みならびに平成27年度予算案につき、事務局から説明があった。来年度予算案についても、異議なく承認された。

2. 報告事項

(1) 委員会等報告

・保険学雑誌編集委員会

中浜委員長より、大会・部会報告の保険学雑誌への掲載状況、ならびに保険学雑誌628号の内容につき、報告があった。

・部会報告

中林関東部会部会長、岡田関西部会役員、石田九州部会役員より、それぞれ活動状況の報告があった。

(2) 日本原子力学会機関誌への投稿

学会事務局より、日本原子力学会からの依頼を受けて、同学会の機関誌「アトモス」に当学会の東日本大震災への対応について寄稿したことが報告された。

（3）規定の整備

鈴木監事から、次の問題提起があった。

現在、学会は会則にもとづき運営されているが、この他に委員会運営に係わる「内規」や、理事、評議員の任期に関する「申し合わせ」なるものが存在する。申し合わせ等では、どこまで拘束力があるかも不明であり、学会運営の透明性を確保するため、学会を運営できる人材育成のため、また将来の学会の発展のためにも、任期のあり方を含め、各種規定を整備すべきと考えるがどうか。

これに対して、理事長から現在、企画委員会において必要な規定の見直しを行うことを検討していること、また、理事および評議員の任期ならびに定年についての申し合わせが現状のままでよいか、という問題意識をもっているとの発言があった。

次いで、理事長から、企画委員会の承認のもとに、必要に応じて各種規定のあり方について検討するワーキンググループをつくりたい、との提案があった。特段の反対意見がなかったことから、要すればワーキンググループをつくること、また同グループのメンバーについては、理事長に一任することとした。

なお、規定の見直しに当たっては、一般社団になっている他の学会の状況も調べるべき、との意見があった。

以上